

白雲片片

第十七回

平常心、是れ道なり

今回は南泉普願禪師と、その弟子の

趙州 從諗禪師が問答を交わす古則を紹介致します。

正法眼蔵三百則 第十九則

趙州和尚、南泉に問う、如何なるか是れ道。泉云く、平常心是れ道。師云く、還た趣向す可きや否や。泉云く、向かわんと擬すれば即ち乖く。師云く、擬せざれば、又た争でか是れ道なることを

知らん。泉云く、道は知、不知に属さず、知は是れ妄覚、不知は是れ無記なり。若し真に不擬の道に達せば、猶お大虚の廓然として蕩豁なるが如し、豈に強いて是非す可けんや。師、言下に玄旨を頓悟す。

現代語訳／泉は南泉普願禪師、州は趙州從諗禪師。

趙州從諗禪師が、師匠の南泉普願禪師に質問をしました。

州「仏道修行者が目指す境地とはどういうものでしょうか。」

泉「平常心こそ、我々が目指すべき境地だ（そう特別なものではない）。」

州「では、その平常心を得るために努力して向かつて行くべきでしょうか。」

泉「手に入れようとして向かつて行けば、平常心はすぐにどこかへ行ってしまうだろう。」

州「手に入れたらと思うって、それに向かつて努力しなければ、平常心こそが我々が目指すべき境地ということが分らないのではないのでしょうか。」

泉「釈尊の境地は、知っているとか知ら

ないとか、分かる分からないという類のものではない。もし本当に、平常心を得ようとする必要のない境地に達したならば、それは、この世界が明々白白々として眼前にあり、ゆつたりと落ち着いていてしかも広々としているのと同じような状態だ。どうしてそういう素晴らしい境地について正しいとか正しくないかと判断できるだろうか（できるわけがない）。」

趙州從諗禪師は師匠の言葉を聞いて、言わんとするところを即座に悟りました。

南泉普願禪師の示された平常心是道という言葉は、南泉普願禪師の本師、馬祖道一禪師の言葉だそうです。この古則の時代から後の宋代に、永安道原禪師によって撰述された、僧伝や古則などが載っている景德伝灯録の中に、馬祖道一禪師が平常心について示されている箇所がありました。

景德伝灯録二十八卷 馬祖道一章

江西大寂道一禪師、衆に示して云く、

道は修を用いず、但だ汚染すること莫れ、何を汚染と為すや。但だ生死心有つて、造作趣向す、皆な是れ汚染なり。若し直に其の道を会せんと欲せば、平常心、是れ道なり。平常心と謂うは、造作無く、是非無く、取捨無く、断常無く、凡無く、聖無し。経に云く、凡夫の行に非ず、賢聖の行に非ず、是れ菩薩の行なりと。如今の行住坐臥、応機接物、尽く是れ道なり。・・・

平常心という言葉は漢字の持つ意味通りに解釈すると、平らかな心の心ですから、起伏のない、いつもの心ということになります。この点は一般的に使用する意味と同じですが、では古則の中で祖師が示している心とは何でしょうか。南泉普願禪師や馬祖道一禪師の教えを見ると、平常心＝道＝如今の行住坐臥、応機接物であり、馬祖道一禪師は「凡夫

の行に非ず、賢聖の行に非ず、是れ菩薩の行なり」と、維摩経の文章を用いて「行」と示しておられますから、祖師の示す心という言葉の中には、世間一般にいう精神的な事だけではなく、修行者としての日常の立ち居振る舞いなども含まれているようです。道元禪師は弁道話の中で身心一如（身と心は一つの如し）、性相不二（性と相は二つにあらず）、仏法ではいわゆる肉体と精神、物質と性質は同一であると説くから、これを信じて疑うことのないように、と示されていますから、平常心という言葉にも同じ事が当てはまると思つて良いかもしれせん。

南泉普願禪師の「向かわんと擬すれば即ち乖く」という言葉は短いですが、大変意味の深い言葉だと思ひます。普通は何か目標があつて、それに向かつて努力して、いつか目標を達成しようと思つたものです。しかし仏教に関しては正しく修行をしていけば、それ自体が究極の事なので、そこから何かを求めて探し回ると、

むしろ道から逸れてしまうということがですから、世間の常識とはかなり違ふものがあります。

また、馬祖道一禪師の「平常心と謂うは、造作無く、是非無く、取捨無く、断常無く、凡無く、聖無し」という言葉も大変参考になります。造作、是非、取捨、断常、凡、聖、これらは全部、人間が頭で考へて判断した結果です。ああしようこしようと考え、正しいか正しくないかを考へる、選ぶか選ばないかを考へる、断見と常見のように極端な事を考へる、凡夫なのか聖者なのかを考へる、そういうことは道とは関係がないし、平常心ではないということのようです。

上の古則に登場する三名の禪師は三百則に何度も登場されることから、後に多大な影響を与えたと思われ、編纂された道元禪師がその教えを大変貴重に受けとめておられたことが窺えます。参考文献／駒沢大学編「禅学大辞典」、西嶋和夫著「真字正法眼蔵提唱上巻一」

南嶽懷讓

馬祖道一

南泉普願

趙州從諗